

江戸名所圖會

五

農務省
圖書
第九冊
共

大政官文庫
和書門
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

内閣文庫
和書類
二三八七
三四函
九冊

内閣文庫	
番號	和 11387
冊數	19 (4)
函號	174 31

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





河崎万年屋
奈良茶飯

万年

五ノ冊 三ノ七十八

按は今河崎の驛舎の南は堀の内と字する地あり山王権現の社あり
疑ふらるる高重法谷より述べての御神なるを流れども次の山王の社地
ありと凡ハ其趣を違へり又は堀の内と稱するも高重旧館の地なる
れども土人のことを詳せば他日考へべきなり

堀内山王権現宮

河崎上新宿街道の中程より左へ入る二丁

南あり相傳ふ 欽明天皇の御宇勸請せしと河崎の鎮守

中々神領あり 社司鈴木氏奉祀也 鈴木氏祖先三郎高重と
いへ熊野の鈴木氏より

本社 祭神武甕槌命相殿 伊井諾尊 伊井冊尊 五神合祀也

正月三日流鏑馬神事あり 六月十五日大祭あり 十三日あり

十六日に至る大賑あり 其間渡田邑の海濱にある所は旅

所へ神幸あり 堀森と号く河は洗池ありその傍は舟天の業洞あり又
土人云此河は洗池より出たり 十五日神輿渡河の時前へ神幣七柄を持

如せりと相傳ふ弘安四年川畑櫻川左近助と申する人勅をまり

奉幣使とて当社に向はる頃の弊串なりとて当社弟一の

三ノ七十九

神寶とて奉幣使の人名不審なりとて 又九月十九日あを角力の伎と

與初十一月廿三日お八年の市立也

按は同所佐木明神の社記は佐木四郎高綱頼朝公の命を蒙り河崎
山王宮の社造營奉行なりと云ふを載り當社の名をのりなる

洲河原桃林河崎渡口より大師河原迄の間や田園悉く

桃樹を栽り故は開花の時に至ると紅白色を交へて奇

観あり

除厄大師堂 大師河原あり 金剛山平間寺 金乗蜜院と号は

真言宗ゆき醍醐三寶院に属す 當寺は安置せし大師の靈像を
此地より出現あり故は此地を

弘法大師像 弘法大師の眞作なり海中あり出現
あり多佛體悉く貝壳相著てあり

額 金剛山 石川本五亮頼直筆 密殿は平間寺と書せしも

六字名號石碑 堂前左の方あり石面中は南無阿弥陀佛とあり
傍に寛永五年三月二十一日雪翁月盛居士と注し花押を

印せり碑陰は武州江戸京橋記伊國屋櫻井又大夫三月二日脚靈夢の所六郷
大橋中々大師の御筆を蒙り此名号法名雪翁月盛居士万人は愚筆を深く

大橋中々大師の御筆を蒙り此名号法名雪翁月盛居士万人は愚筆を深く



河崎山王社



大師河原
 大師堂
 正五九月の廿
 一日 齋詣多
 就中三月廿
 一日ハ影供
 多く詣人
 稲麻の如く
 往還の賑ひ
 尤夥し



供養となす。一鐫付より東海道名所記云く寛永年中江戸京橋は紀伊國屋作内
とて一文不通のとのあり酒を造りて業を内深く此本を信仰し常歩歩
運ひたる小ある夜の夢中は大師六字の各号を書き教へて奇異の神ひをなすあり日
當寺の大師へ糸指し給ふ六郷の橋の上より筆一對拾ひ給ふ夫より大師の教へ
多し各号を書き給ふ筆勢は類なるこれハ作内石塔は各号を書き鐫つけ
大師河原より建よりされと外の死ハ一字を書き給ふと云く

縁起曰弘法大師の靈像ハ大治年間此所の浦小住平間
氏某なる漁人常ニ三寶を敬み其家貧しく産業を弘ん
方便も無く空しく年月を送り迎へ既ニ四十二歳の年あり
依り災厄消除と神佛に祈りて或夜大師告く曰く我昔
在唐の日自ら吾の肖像を彫り有縁の地は漂着せし
誓ひ海水に投て後久しく海底にありし今幸小此浦に止る
汝網を下して是をば永く此地に化益を布厄難を除滅
一人の所願圓満なるとと漁人夢覺て奇異の事と
夜のあつを待て海上を見渡せし一條の光明赫たるあり

其所舟を寄せ網を沈降せし果て夢中に見るは此容
貌ハ毫釐も違はざる大師の靈像を得たり仍一字を創立し
平間寺と号す平間氏の号を爾來已降靈應著く常小詣人
絶るなり正五九月の廿一日別く三月二十一日ハ御影供終行
ある所小大は賑はつと

蜂 龍盃 大師河原村池上氏の家は蔵せり往古慶安年間此地は
於て酒戦あり一時用ひたり一盃やと酒七合餘つと云
盃中蜂と龍と蟹との象を描金にせり 蜂ハ一龍ハのむ蟹ハ有を
相傳池上氏ハ小田原の北条家は属し仕小田原落城の後池
上村に移り池上を氏とて 後今の地へ此家ハ水鳥記に云えし酒客
大蛇丸底深々末裔なり 底深通稱を池上 慶安元年八月江戸大
塚の地黃坊樽次 茨木春朔と稱す春朔の弟ハ此底深々家に至り
樽次底深共酒將とたり 數多の酒兵を集め敵身方と分れ

末廣松



庭中林泉の儲杯あり橋の傍に下戸の葦渡りありと
 注せし制札を建よりとなり酒客宴飲の旧跡を今田園を
 なる此松も底廣の愛樹ゆへ未廣と名つけしといふ
 此家ゆへ酒戦の頂用ひたりといふ大盃あり
 箱の蓋に水鳥底廣盃と題し又左の如く此
 發句を注せし
 大所はありありありと橋のつらとあり
 橋ありありあり

一葉 蔓や西風上戸終む乃後

活圃

鹽濱

同所南の方北海濱なり寛文九年己酉叶菜雲
 及い泉市右衛門といふ者開初よりと云依り今も大師河原
 川中島稻荷新田等村に鹽を製するを以て産業とす
 その少くは此地風光甚佳景なり

按に底廣を橋次といひ海濱よりなりといふ

河崎
汐濱



二八十五

石観音堂



石観音堂

同所平間寺より七丁斗を南よりあり天台宗に
 して慧日山明長寺と号し本堂ハ石像の如意輪観音之
 故は石観音 毎月十七日道俗通夜糸菴を靈龜石ハ門内左の
 垣の傍にある所の石の手水鉢を以て 十八年の秋海底より出づ
 所の靈石や此地の漁人引揚むとせし時二三の靈龜を漁人と共に
 捧げ揚ぐ依りて大悲の威神ありとあり同七月晦日竟に堂前より
 損し水と今ハ此石破れ

新

田大明神社 堀の内山王の社より耕田を隔て七丁斗南の方

渡田村の道より右におあり 渡田昔ハ 例祭ハ七月二日なり土俗

云毎年正月元日と七月二日の曉中必軍馬の馴く音

あつるりありとと 相傳河北矢口村鎮座より向て廢子義興公の神

本社祭神 新田左中將源義貞朝臣の靈なり相傳義貞

公延元二年丁丑閏七月二日越前國足羽の里比戦ひ利

あつるり竟に主あき矢のあふ亡ひあひくハ骨鯁の臣巨新左衛門



河崎新田社
無動寺
巨新左衛門墓

尉早勝無念の涙を拭ひ、そのなる深泥の中を捜し求く
義貞公の差添の名劍と七ッ入子の明鏡及陣羽織等純
三種をゆき此地は携へ、ゆき幽室に安し朝夕給仕する
公の生家の異なり、ゆき早勝終に弓馬を捨てる人に面
せし一向静座し、ゆき餘齡を養へ、然る里民等公の徳成
追慕し、ゆき三種を早勝に乞ひ清潔の地を求め、孤松の
本の土中へ埋藏し、ゆき廟を営て新田大明神と崇まわらせ
此地の鎮守とせし、ゆき河内國の後祭田等を附らざるあり
其孤松今ハ
枯てなり

太平記曰、越前國足羽合戦の条下、ゆき軍散る、ゆき後氏家
中務丞と重國、ゆき尾張守、ゆき高経、ゆき越前、ゆきの前、ゆき恭て重國、ゆきを
新田殿の侍一族とせし、ゆき敵と討ち、ゆき首を取て、ゆき作らば
誰とも名乗作らば、ゆき名字をハ知作らば、ゆき馬物具の様相

順兵ともの尸骸を見、ゆき腹をきり討死を仕作らば、ゆき幹
何様尋常の葉武者、ゆきあつたあつたと覺る、ゆき作是を其死
人の膚は懸る、ゆき作らば、ゆき護り、ゆき血を未あはぬ
首は土の著る、ゆき金襴の守を副て、ゆき出たり、ゆき尾張守
此首を能く見給ひ、ゆきあふ不思議や、ゆき世は新田左中將の
顔つゝ、ゆき似たる所ある、ゆき若し、ゆきあは左の眉は上に
矢の疵有へ、ゆき自鬢櫛を、ゆき髪を搔あけ、ゆき血を
洗き土を、ゆきあはひ落し、ゆき是を見給ふ、ゆき果は左の眉の
上は疵の跡あり、ゆき是は弥心付て、ゆき帯る、ゆき二振の太刀をハ取
寄らば、ゆき給ふ、ゆき金銀を延き、ゆき作らば、ゆき一振、ゆき銀を以
金膝纏の上へ、ゆき鬼切と云文字を沈し、ゆき一振、ゆき金を以
銀脛巾の上へ、ゆき鬼丸と云文字を入らば、ゆき是ハ共は源氏重
代の重宝、ゆきあは義貞の方、ゆき傳はり、ゆき聞ゆれば、ゆき赤くの一族

共の帯へも太刀を非せとるる弥怪るれ八層の守を
 開くもくもくは後ろの吉野の帝は御宸筆も朝敵征伐之
 事慮所向偏在義貞武功選味求他可運早速之計
 略者也と遊されしを扱ハ義貞の首は相違なつるなり
 とく尸骸を與へ衆せ時衆八人は早せく葬礼の爲り
 往生院へ送られ首を八木の唐櫃に入氏家中務を副く
 潜よ京都へ上せられり云云

新田山成就院 聖無動寺と号し同所一丁斗南の方同一
 側にある新田大明神の別當寺なり新義の真言宗
 六郷の宝幢院は属せり本寺不動明王弘法大師の作
 なり義貞公護持の靈像なりとのみ
 左の相傳義貞公入間川陣を布る頃二童子の枕上り
 立ちひ瀧倉退治の心願あり八豆田の里に安置しなる所の

御靈権現社
 巨新左衛門塚



燒々森
栗生左衛門塚



不動と崇信せよとあり依々義貞公此靈像は誓願を

こせと竟も高時と討たしとあり

巨新左衛門尉早勝居住旧址同所門前半町あり西の方道

より左よあり此地は元弘の頃巨新左衛門より赤邑あり則此

地は住しとあり早勝没せよの後も里民其旧恩を忘れぬ

并々一祠と營建し早勝の靈を鎮く御靈推現也

崇敬を傍も早勝の墳墓あり高と三尺計れ石乃

層塔

燒々森 成就院より七八町計南の方海濱よりあり堀の内

山王の旅所あり西の方へ續き馬場の形を存せ

馬場ありと云侍の洗池ハ森の中よ

栗生左衛門尉忠良塚 同燒々森よりハ五丁計西の方海濱に

臨る方八間斗竹藪の中よ有り

五輪の石塔あり相傳ふ

忠良卒の後早勝朋友の信を以て其靈骨を此地に埋藏し塚を築くことあり

瑞龍山宗参寺 河崎驛砂子町の右側の向あり洞家の禪刹中より末吉の宝泉寺に属す本寺釋迦如来八座像あり

一尺五寸計の唐佛なり 殿土ハ文珠普賢の本像にして作者詳あり

佐々木四郎高綱の香花院あり 寺頃ハ砂子一邑悉く當寺の食地あり

禪林あり 鎌倉の建長寺に属せしもの遣の後天正に至る

小田原北条家の功臣間宮豊前守信盛といふハ

附 末吉邑宝泉寺四代の住持自山長老を請て當寺の中

元禄二年小田原北条家没す 間宮豊前守所領武蔵久良岐郡杉田江戸川崎小机末吉東郡小雀入西郡富屋三浦元文殊坊知行の地を以て六百九十八貫百廿二文の地を領す 佐々木四郎高綱遠裔なり 一ハ寺境方八丁と寄附し末吉邑宝泉寺四代の住持自山長老を請て當寺の中

奥洞山と曹洞宗を改む 信盛法名を瑞榮院殿雲谷

宗三大居士と号す 其石塔ハ當寺佛殿の後の方银杏樹の

下に存す 元禄年間 幕下間宮家より宗参大居士供養の爲其采邑川崎小田村あり 寺領の地と寄附せしむることあり

按 當寺什物 元禄四年辛未正月間宮家寺領寄附状に間宮豊前守信盛法名宗三といふことあり 又當寺開基の墓碑に雲谷宗参居士佐々木前豊前守入道源康信と鐫りしことあり 信盛の法名と宗三の法名とを宗参と稱し又康信が當寺の開基といふ時は康信の法名ハ宗参なりと疑無きふべし

高綱護持の本寺ハ如意輪觀音の本佛あり 座像一尺五寸

あり 作者詳なり 別堂ニ安んずる本堂の左あり

海栄山養光寺 宗参寺より四丁斗先の方砂子町の道より左側

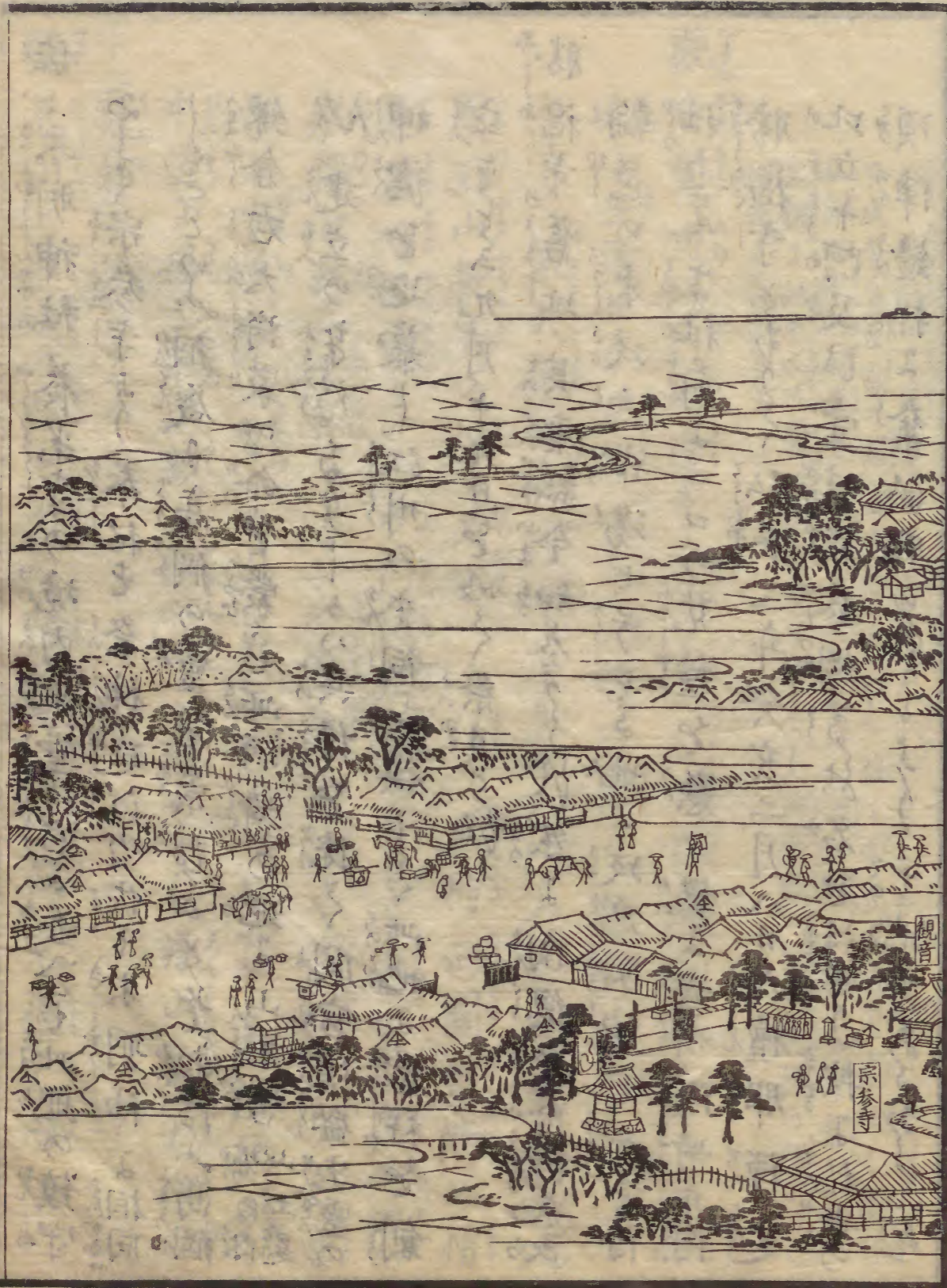
あり 洞家の禪宗あり 宗参寺に属す 指月和尚開創の寺院

あり 本寺薬師如来の座像二尺五寸計あり 延暦六年丁卯の

と 此地の海中より出現し 王人傳云 此地昔は海

濱の砂子を集めて其上に安置せしなり 砂子と云ふ地名發まりと此靈像

昔ハ宗参寺の本寺なりと後當寺に遷すと云ふ



河崎
宗三寺
養光寺
佐々木宮

佐々木明神社 養光寺の境内本堂の右に並べし此地の鎮守
中々宗参寺より奉祀を祭神近江の佐々木明神は相
しきとの相殿は高綱の靈を崇むるとお傳ふ高綱
鎌倉右大将家の命を蒙り此河崎の地は山王宮
建立の地あり其縁を採り間宮信盛先靈の
神徳を追慕し江州の本祠を摸し此地は當社を創
立せし九月十九日を以て祭日とす

勝福寺 舊址 其廢跡今知なき然る南徳望陀郡奈良
輪邑の東坂戸市場と号する地は坂戸明神と稱す
社あり其社前一口の梵鐘を懸る銘は武州河崎庄内
勝福寺とあり弘長三年癸亥二月八日大檀那禪定
比丘十阿及ひ壹岐守泰綱等名を注せり按は乱世の
頃陣鐘杯は棄し取られしより其地はあるあるんを

按は東鑑は文應二年辛酉此年二月改元あり弘長と号し五月十三日
甲戌今日書齋の間廣御所はおのく佐々木壹岐前司泰綱と洪谷
太郎右衛門尉武重と口論は及ふと云々然る時を鐘の落し泰綱とある
東鑑は記を下の壹岐前司のすなわし此泰綱は四郎高綱の甥あり
信綱は二男なり

觀音堂 市場村街道より左の方一心山專念寺なり淨
刹は安置せり本堂千手大悲の像を寛朝の作御丈四寸
ありし紫式部の念持佛なりと云傳ふ兼應年間近江
國石山觀音の辺は老嫗一人住り或時西國杉脚の僧
愚藏坊照西といひ沙門此老嫗うとて宿せし夜老嫗の
病悩を救ふを報とて此靈像を授く後故ありて當
寺は安置なり其處とて毎月十七日ゆゑ系詣の人多し
本堂は掲るゆゑ額は一心山と書せし縁山前大僧正
雲外の筆なり

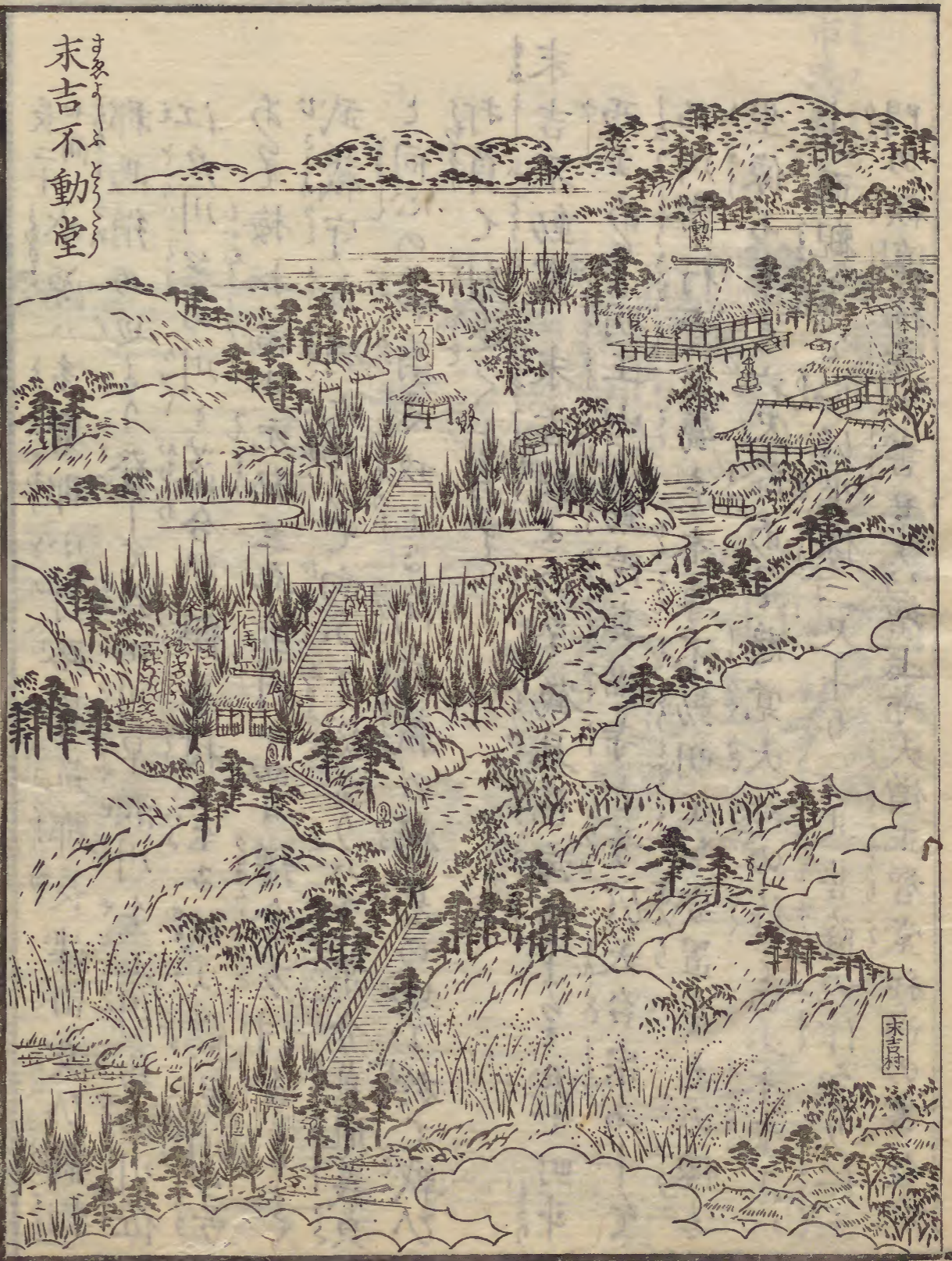
鶴見川 海道は架す所の橋の号も又鶴見橋と名へし

市場観音



三十九

長二十七間 水源ハ多磨郡小野路都筑郡長津田及び橘樹
郡馬絹の辺より發して恩田川早瀬川矢上川鳥山川佐
江戸川等の川々落合ひ鶴見村に至る故は鶴見川の号
あり梅松論元弘三年五月十四日鎌倉方討ふと
武蔵守貞将大御前向ふ下総よりハ千葉介貞胤義貞
と同心の義有る攻上る間武蔵の鶴見の辺に於て戦ひ
打負て引退くとあり
末吉不動堂 末吉村あり鶴見邑海道より七七町斗
西あり明王山不動院真福寺と号ひ天台宗ありて
品川常行寺は屬を本尊不動明王を安置するその像も
坐像あり六尺餘あり慈覚大師の作といふ本堂あり
十一面観音と安ん坐像二尺斗り行基菩薩の作あり仁王
門の額真福寺と書せし増上寺大僧正智堂和尚の書あり



末吉不動堂

秋田城介義景旧館地

其地今ある處より東鑑仁治

二年十一月四日

將軍家武藏野開發の湯方違と

義景武藏國の鶴見の別荘に渡御願ひて壯觀ありとあり

醫王山成願寺

鶴見村の内ふて街道より山手へ入るる三丁

斗より曹洞の禪刹にして寺尾天光寺は属本寺釋迦

如来ゆて作者詳るる開山と聲菴開大和尚号をも

薬師堂小安まゝ所の薬師座像あり七尺斗り古佛よ

してとも小作者知るるといふ

白旗八幡宮

白旗村あり義經の靈を鎮る所と云傳ふ別當

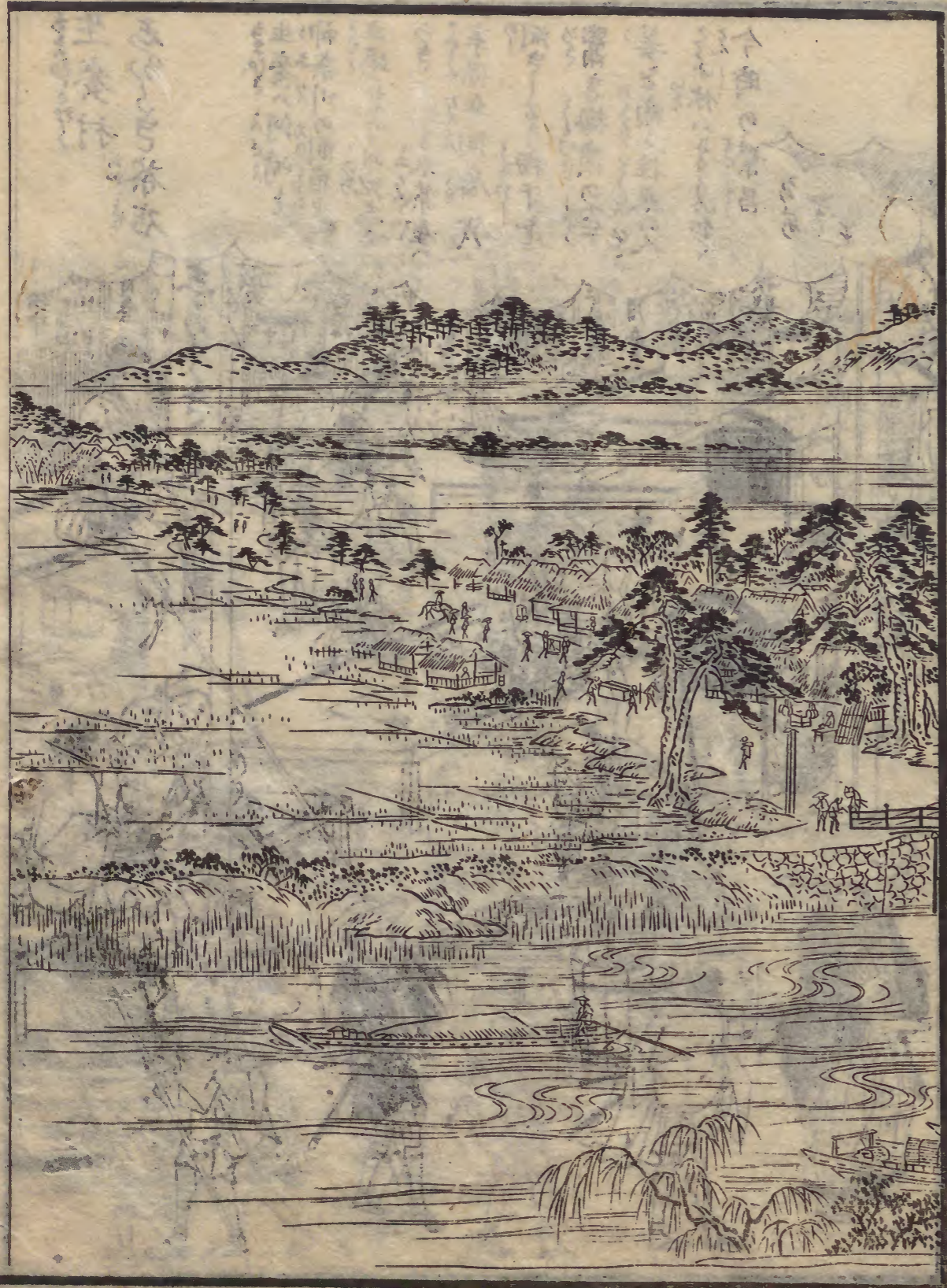
と神奈川能満院兼帯以來由と拾遺江戸名所圖會小

詳る

子安觀世音

子安村海道より右の方此岳あり子生山

東福寺と号は新義の真言宗あり神奈川の金藏



鶴見橋
 橋より此方
 米饅頭を賣
 家多く此地の
 名産とす鶴屋
 名産とす鶴屋
 旧く慶長の頃
 より相續きと
 二平十日
 田代介

生麥村
あかき茶店

生麥ハ河崎と
神奈川の宿
立場なり此地
らきとの水茶屋
享保年間
陶きより梅干を
齋き梅漬の生
姜を商人往来の
今時の繁昌



成願寺
しやうげん

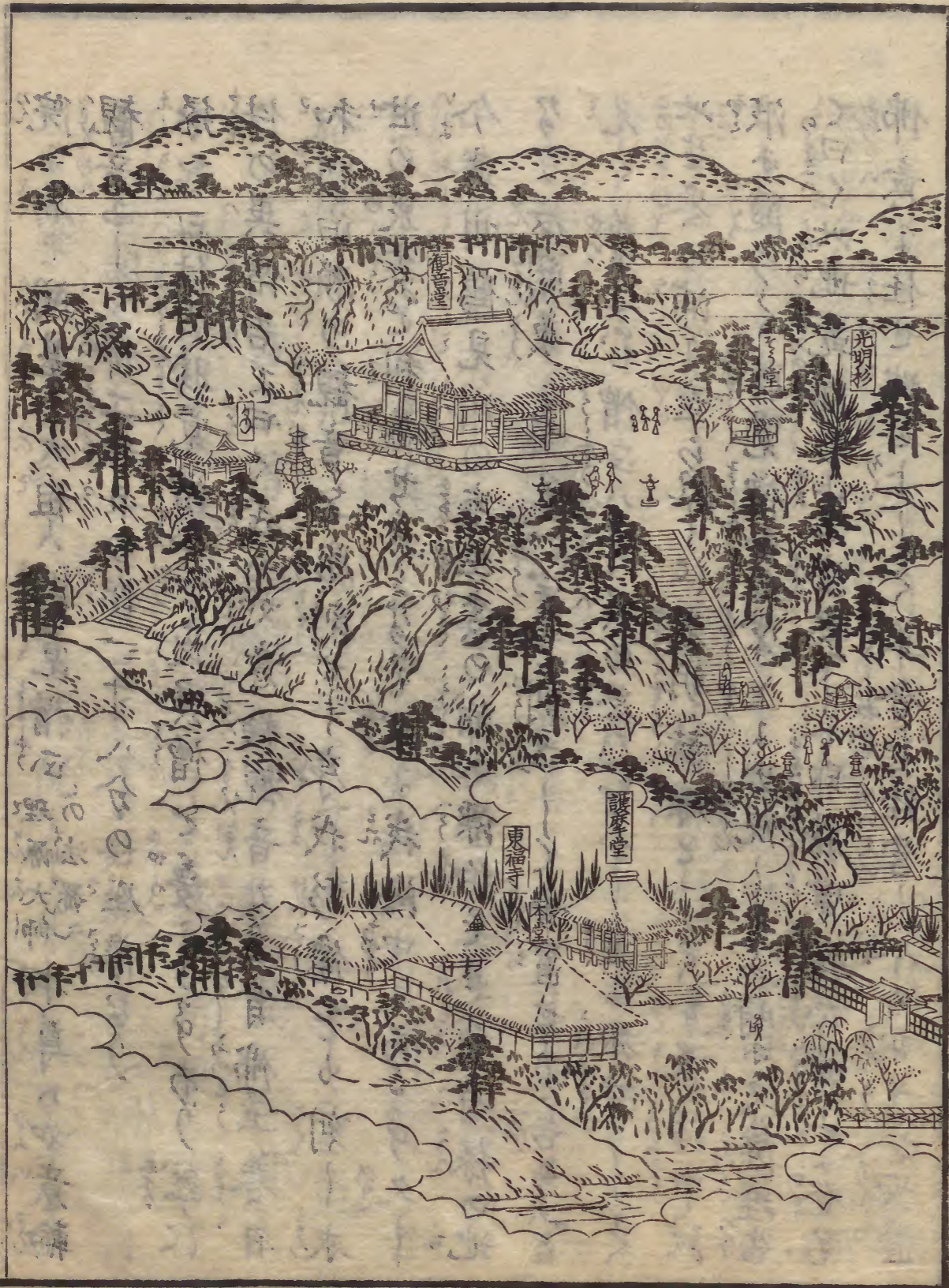


竜燈松

本堂

白旗八幡宮



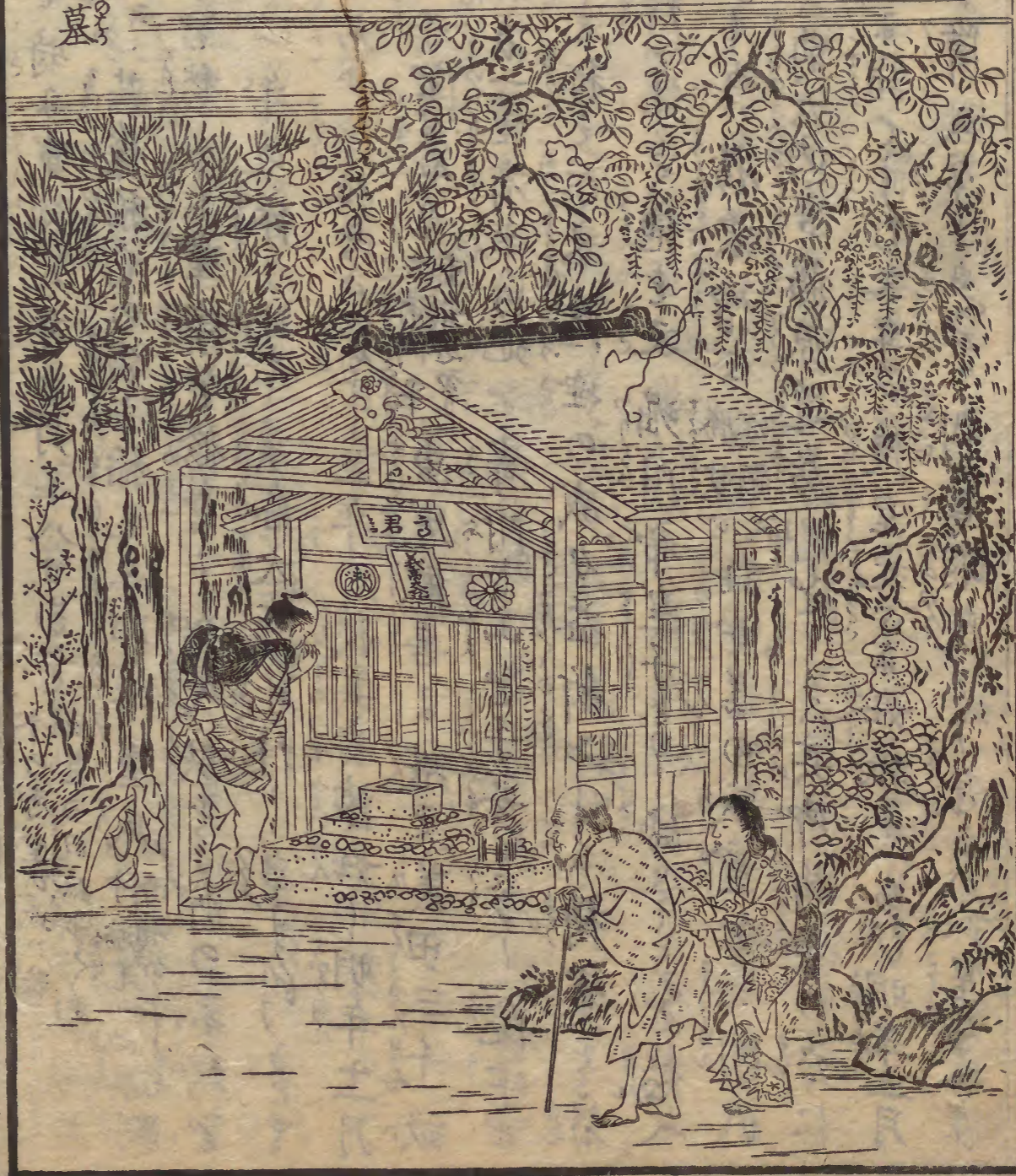


子生山
観音堂

院いん子こ属ぞくをを開ひら基きの大だい祖そハ勝しょう覚かく僧そう正しやう理り源げん大師だいし本ほん尊そんハ如に意い輪りん
觀くわん音いん中ちゆうニ佛ぶつ工こう春しゆん日にちの作さく一寸いっしゆん八はち分ぶんの座ざ像ざうなり
縁えん起き曰いは往かう古こ勝しょう覚かく僧そう正しやう一いつ夜や異い僧そうと夢ゆめさるるあり然しかに
件けんの異い僧そう告つて曰いは我われハ如に意い輪りん觀くわん音いんなり昔むかし佛ぶつ工こう春しゆん日にち
和わ州しゅう泊はく瀬せの觀くわん音いんを彫てう刻こくせし序しよ我われ形けい像ざうをも刻こくし未ま
世せいの衆しゆうを利益りやくせよと乃なる然しかる我われ海かい中ちゆうにあり久ひさし
今いま武ぶ州しゅう鶴かく見けん川がわの末ま生せい麥まきの浦うらハ漂う泊はくを是これ我われ有あ縁えんの地ち
乃なり汝なんぢ關かん東とうニ至いたる一いつ宇うを創さ立たし安あん置ちせよと告つぐ
えと夢ゆめさるる僧そう正しやうハ奇き異いの思しひをか直ちに旅りょ装さうし
此この生せい麥まきの浦うらニ至いたられしに光くわう明めい赫こく燦さんとさるる今いま海かい中ちゆうに
浪なみ小せう隨ずいつゝ勝しょう覚かく僧そう正しやうの掌てう上じやうニ出い現げんし時ときハ又また薩さつ埵てい告こ
て曰いはく此地このち乾けん隅ぐの山やまニ安あん坐ざし即すなはち勝しょう覚かく僧そう正しやう當たう山さんニ登のぼり
佛ぶつ意いニ任まかせ地ちを卜うらひ草くさ舎しゃを經けい營えいし今いまの女にを安あん置ち

せらと時ときハ寛くわん治ち元げん年ねん三さん月げつ十じゅう八はち日にちあり今いまの御ご堂だうの地ちハ昔むかしあり本ほんを
改かへむ其その後のち稻いな毛けの領りやう主しゆ稻いな毛け三さん郎らう平へい重ちゆう成せい中ちゆう稻いな毛けの地ち其その嗣し
なると愁うれと堂だう宇うを修しゆ營えいし諸しよ人にん供くを所しよの米まい錢せんを
乞こへ一年いつねんの俸ほうニ比ひし晨あけ昏くれ大だい士しへ礼らい拜はいし事ことハ
恰あつも君きみ小せう給たま仕まさるる三年さんねんの後のち其その妻つま懷い妊にんし明年めいねん十じゅう月げつ
一いつ男おとこ子こを生うめり左さ衛ゑい門もん平へい重ちゆう成せい歡かん喜ぎニ堪たむ美み田でん三さん千せん畝こ
山さん林りん方ほう一いつ里り有あ半はんの地ちを寄よ附ふし山やまを子こ安あんと号ごうし院いん宇うを
植う本ほんと称なづむ尔なんぢ来きた薩さつ埵ていの威い力りき益えき新しん中ちゆうニ禱たう賽さいする者もの
絡らく釋しやくと絶たつを又また堀ほり川がわ帝てい皇かう子こありほと愁うれへ
あひしうハ勝しょう榮えい僧そう正しやう法ほふ勝しょう覚かくの此この女にの威い靈れいを奏そう聞もんは
依より前まへ大だい納なつ言げん藤とう原げん道だう房ぼう卿けいを其その御ご祈いのち願げんの爲ために
當たう山さんニ詣まてし三年さんねんの後のち皇かう妃ひ正しやう小せう妊にんし明年めいねん五ご月げつ
太たい子し降かう誕たんなり是こゝ則すなはち鳥とり羽う院いんとヤやまるハ此この皇かう子こなり

義高入道墓



按ふ鳥羽院ハ康和五年正月十六日
 降誕多り五月ハ誤
 東福寺の号を賜ふ遙の後文龜永正の間東國屢兵戦起
 頃大ニ衰廢せしむ大慈閣のを嚴然しりしあり

寺僧云今に至り寄願ある者當寺を修し
 限を定め給仕と稱し誠信は祈念し
 給仕の年限満すと云ふ

仙鶴山松隱寺 東寺尾村あり
 享保の頃をハ 濟家の禪林に

鎌倉建長寺雲外庵の佛壽禪師開創の古刹あり
 禪師ハ建武二年二月十八日化寂まとの鎌倉志ある文和
 三年二月十八日寂とあり此地ハ雲外庵の采地なり
 本寺釋迦如来ハ
 座像ハ二尺計あり

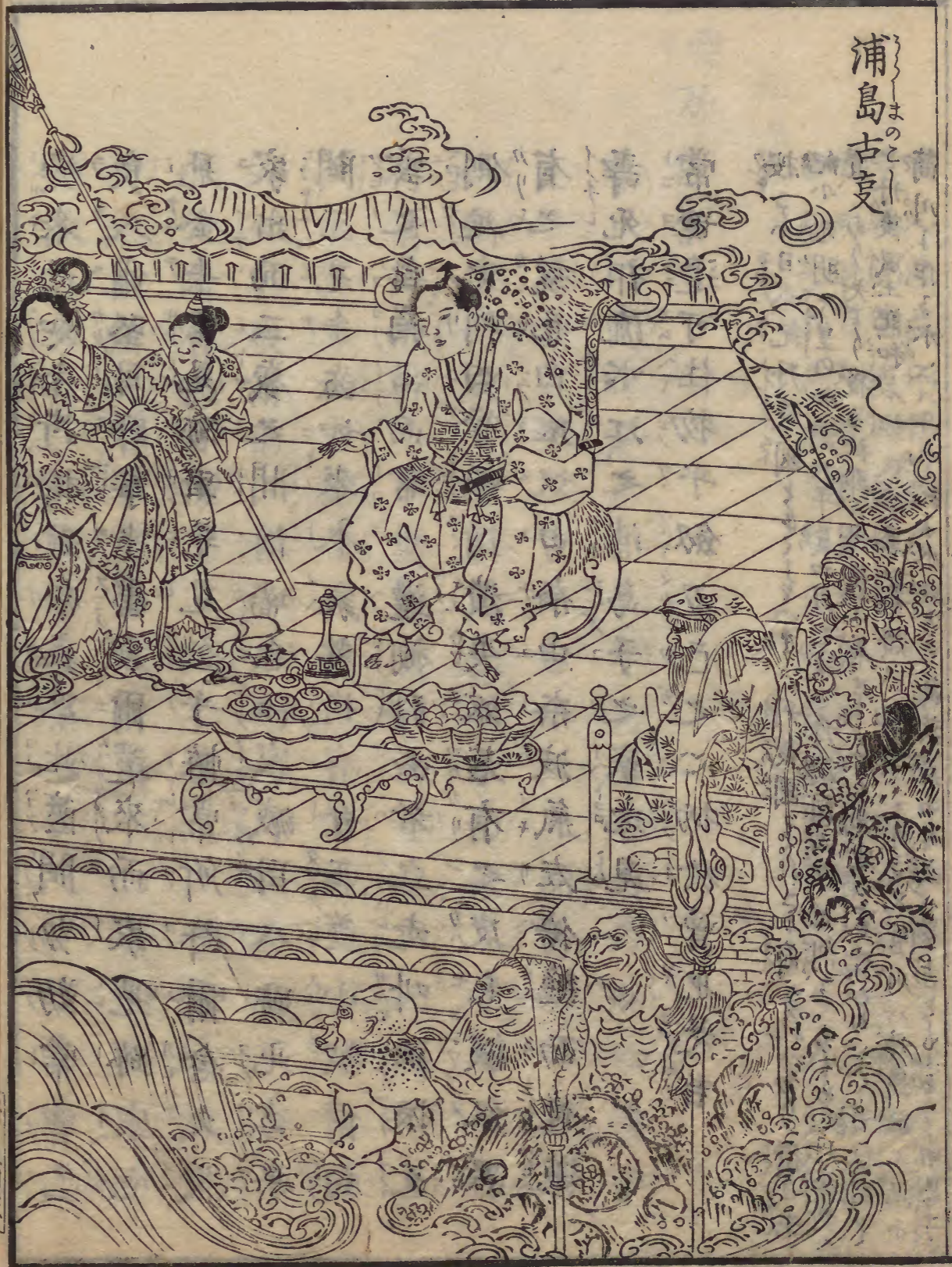
慈眼堂 松隱寺ありさ 渡しを丁斗門を如く小き坂を

下里廻り二丁半斗岡の上あり本寺十一面觀音
 佛工春日の作なり小机札所の一也
 兼帶せしと 松隱寺あり

観福壽寺
浦島寺



浦島古変



傳續浦島子傳とに澄江とを接し仙覺律師の萬葉集抄に引所の丹後風
土記に美頭乃睿能宇良志麻之古とありくもてふそののえと水も澄れ
義あつた通して云あつた

相傳往古 雄略天皇の御宇 日本紀雄略記二十二 丹後國與謝郡管川

の人小水江浦島子といふあり 寺記云相州三浦住人水江浦島太夫といふもの
大裡の役も極てあつた形成國餘佐郡管川と

或ハ太郎とせり續浦島子傳は浦島子何もの人ありと云ふ蓋上古の仙覺
御記ハ三百歳を過く形容童子のあり人あり仙と好み秘術と學べり又丹後

一時七月の事なる小獨小舟に乗し海上小釣し靈龜を得たり

其形勢と見え尋常はあつたそれハ恠とあひ且何舊て是と

放ゆり川 浹辰ありく彼龜化し一人の美女とあり前の恩と

報んとく島子くもと携へて蓬萊山海若神の都に至りぬ

かく後浦島子ハ仙室の筵に侍り常に靈藥の味ハ殘嘗

目小花麗と視身小雅樂の樂を聞觀宴日を送る 日本後記小
葉集抄も家此而三歳之間雨檣毛無とありとされと本上を懐か

心起し獨二親を意あふ神女小此るを告ぐれハ神女ハ島子

別を意慕くとも竟止るき色も見え縁ハかひなく

一箇の玉匣と與へく云く子遂小賤妾と遺れをく再ハ

此神仙境へ来らんとあつた必此匣の裏を開きえりあつた

島子そを約しとり事外喜ひ彼匣と受傳へつた

分ち辞し去る頓蓬嶺の仙都をゆるとあつた與謝の

舊里小飯と着ぬ 日本後記云浦島子天長二年郷小歸る今小至り三百四十

三十二代を送り水鏡ハ雄略天皇廿三年と七月ハ浦島子蓬萊へ傳へり

たり云く同書傳和天皇天長二年と浦島子ハ之を中書雄略天皇の御世ハ

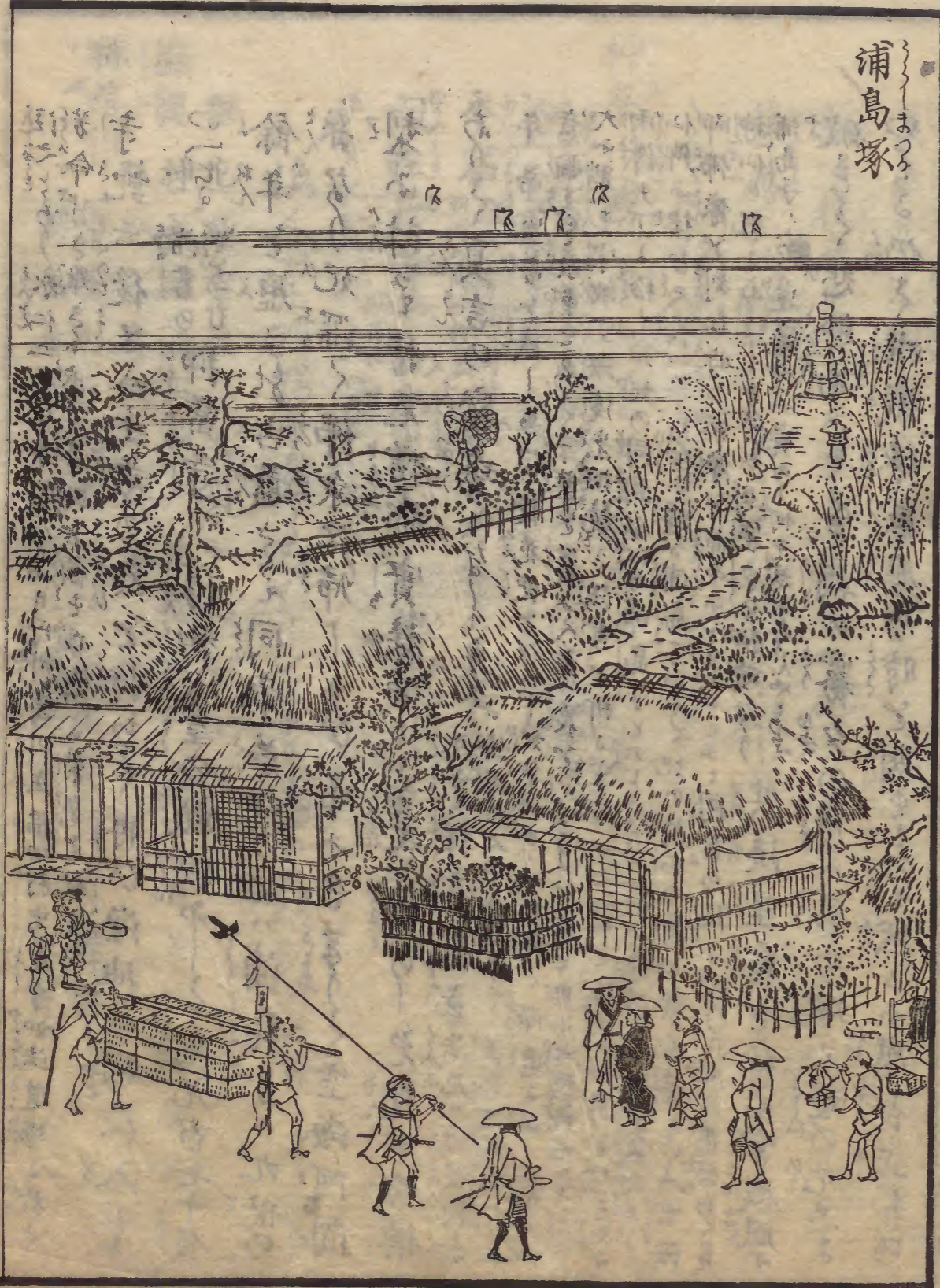
八年かたりされと物換り星移り家園ハ寢し何濱とあり山

岳ハ改く江海とたり荒蕪の間邑煙を絶え舊塘寂寞とて

道路跡ぬゆりあつた知人さなれハかみ惟しみ

かの驚き郷人小旧俗の行方と問ふ一人の翁答へく云く昔爾

浦島塚



水江の浦島子といふもの釣と好し舟小乗し海を遊ひ永く
 家小歸らんとしつとて幾數百歳を経るもをを
 續浦島子傳より云ふ衣と洗の老嫗小あり唯我祖父の世古口傳とて數百
 歳を経るの傳來語は云く昔水江浦島子といふ者あり釣を好し舟小乗し久江
 浦島子傳より云ふ蓋海中に入り幾數百歳を経るもをを
 後記云く浦島子仙化あふ於て蓬嶺の仙宮に遊みの間時世
 遙小隔る舊里の遷変せしむと悲歎し又仙遊の未央を想
 像く悲意は堪も前の誓ひを忘れく忽小玉匣を開きこれ
 裡より紫雲ゆき蓬城とて去るの時
 其形容忽然とて衰老皓白の人と変て云云
 絶而後遂死
 神流永江之浦島子家地見云云丹後風土記より島子俄小老翁とてり遂小死す
 時天長二年なりとあり扶桑略記日本後記上小同續浦島子傳小島子神
 女一諾の約と違へ仙遊再會の期と失ひ紅綾行白髪と濕り丹誠載緒傳
 密と乱其後金梁の鳴玉夜と飲紫霞と食青彩と服頸鶴と延立く遙小
 蓬嶺の蓬嶺神鳳の馳と望と時と遠く速く仙洞の芳流と鶴と巖何は飛遊し
 海浦の隱論不朽宜始小兼平二年壬辰四月廿二日勤解由曹司は於て地家高
 記せしもの中



平尾
物見



神奈川
總圖

本堂

本堂

其二



其三



金川駅送別
出餞西着山上山街杯
為問太刀鏢蒼波欲通
金川海紫氣遙懸玉筍
閑遊子滄雲遲暮淚故
人衰鬢別離顏驛亭不
解銷魂色征馬翻送
往還

南郭



神奈川臺

此地ハ、海
岸ハ臨ミ、海亭
モあり、往來の
人の足を止む此
海辺を袖の浦と
名づく

平安記行

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち



あつち
あつち
あつち
あつち

持資



浮世を渡る。俗世を人をもたぬ。ゆゑに。澤庵

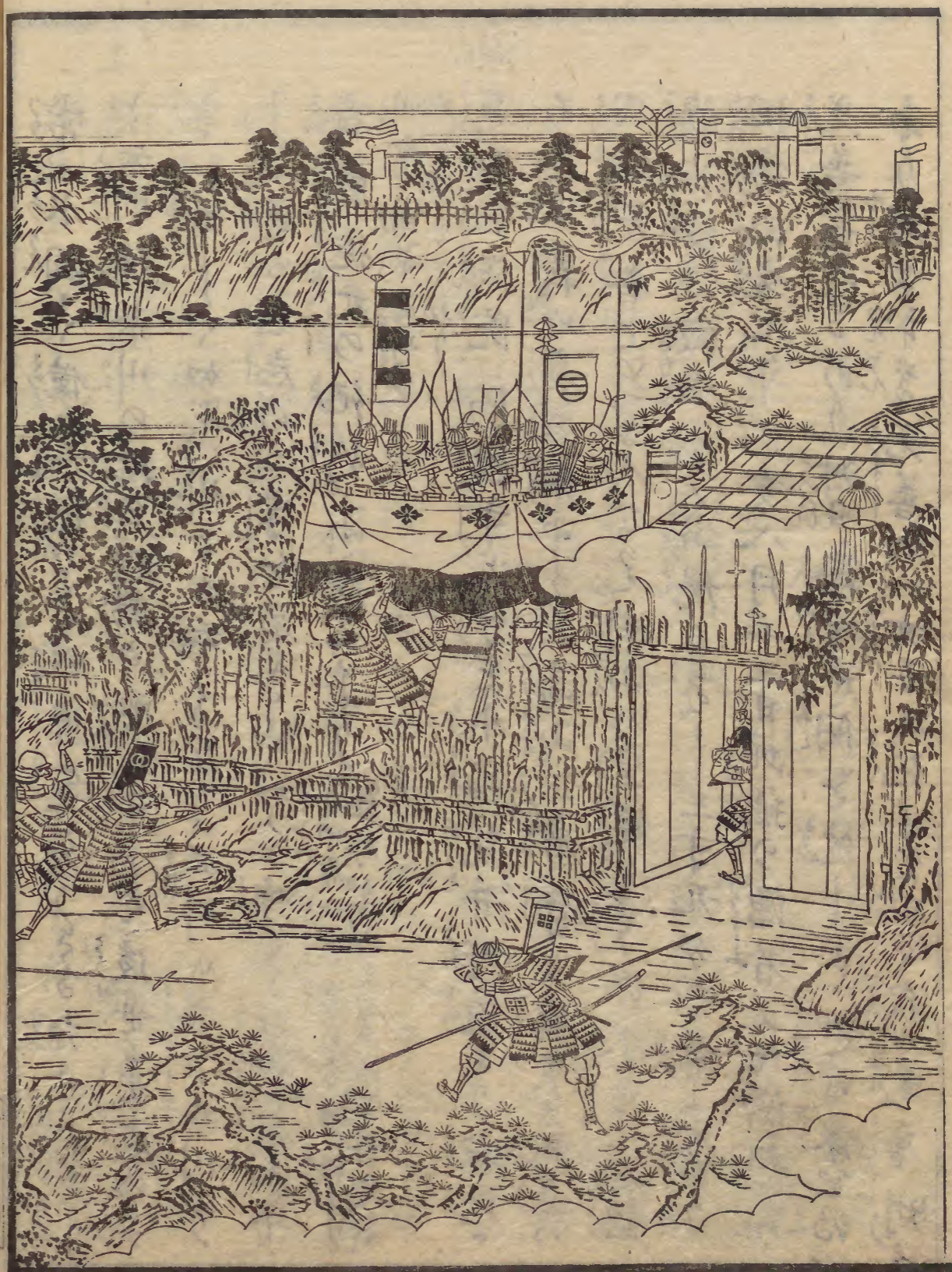
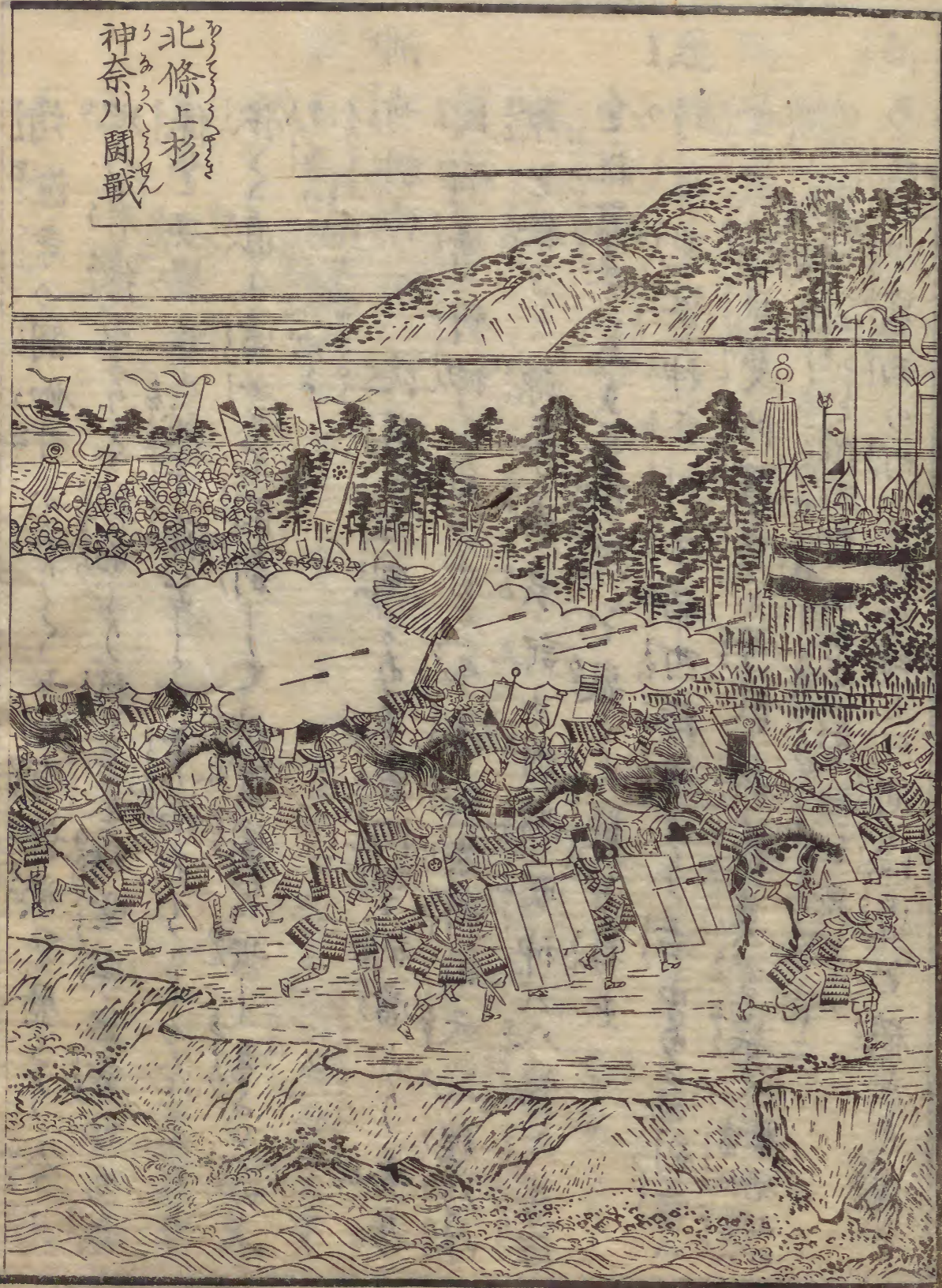
澤庵

此地ハ大平記ゆゑ正平七年の閏二月廿日の武蔵野合戦ハ
 新田義興殿屋義治兄弟終ニ二百餘騎ヲ打初とれ落行
 左馬次小逢々命と失ひやと夜半過る程ニ開戸と過るハ
 途中ゆゑ石堂入道三浦助等の勢ニ行違ひあひ馳る
 此勢と打連て神奈河ニ著て鎌倉の様を問ふ由ゆ
 又鎌倉大草紙ゆゑ永享十二年四月六日上杉修理亮持朝
 伊豆國と立る山の内北庄ニ帰恭一長尾郷小滞留せしむ
 同五月十一日神奈川へ出勢ありしゆゑ
 上無川 本宿中の町と西の町との間の道を横きりて流る
 小溝と号く此兩水架き橋と上無橋と稱す
 橋の長さ
 二間小と云

常ハ水涸く僅の小流なり水源定ならず
 と云則神奈川の地名の興る所以ゆゑ後世災志の二
 字を略し々々糸川と云るなり品川も亦下無川あり
 是も毛志の二字を省き々々かく呼る由寛永五年
 齊藤徳元の紀行ふゑあり
 小田原北条家の分限帳
 矢野彦六といふ人武州神奈

海運山能満院 満願寺と号す本宿荒井町道より右側
 あり古義の真言宗ゆゑ鳥山三會寺ニ属せり開基ハ
 内海光善といふ人なり開山ハ重運と号す本尊虚空
 藏菩薩ハ海中より出現ありし三寸九分の靈像あり
 相傳正安元年己亥八月十三日此地の漁者ニ内海新四郎
 光善といふ者あり此日海中小網を沈し此靈像を拾
 あり然るに光善の女子ニ托して曰く我ハ是房州

北條上杉
神奈川闘戦



清澄寺の関伽井あり七百有餘歳を歴り今此地の有縁ゆより移り汝堂宇を営む我像を安置せよ必子孫と幸福ありん

洲

崎明神祠 海道の右側あり普門寺別當より安房

命を祭ると源平盛衰記は洲崎明神ハ八幡大菩薩

と祝するともハ兩説を擧ぐ疑と存也

熊

野権現社 神奈川本宿町海道より右あり別當ハ

滝

の橋本宿西の町と滝の町との間海道を横きり流る

川よ架此橋下の流を滝の川と号く故あり水源

七八町西の方堰村と云より登る所の流あり

橋

本宗興寺橋より向ふの川添平町より西の方道あり

左あり曹洞の禪宗中同所本覺寺ハ屬せり

本尊釋迦牟尼ハ室朝の作あり一尺ありは座像あり

堂前の清泉ハ寛永年間

大將軍家御上洛の時此地本宿小旅旅館を儲せられ

一頃沙茶の水小掬せられと云

觀

音山 山頂小觀音堂あり故ハ山の号とせり宗興寺より

令せる石燈尊立し寺は徳門の正中に對し

本尊正觀音の像ハ毘首羯摩天の作あり五寸九分

あり背焼亡ありその旧記を失ひぬ今其来由を考

とつ

とつ

とつ

とつ

洲崎明神



観音山



熊野推現山 観音堂の山積の左の方より高き

地小形をかりある草祠あり往古小田原北条家の功臣間宮

四郎左衛門の城壘の址なりと云前條の本宿町海道

より右よ付ふ所の熊野推現社とのあり或ハ此社を移して

其跡へこの草祠を置く旧地を存せしめや小田原記

永正七年の秋七月上杉治部少輔入道建芳被官上田

蔵人と云一者謀叛を企て北條早雲より一味一武州神

奈川なる熊野推現山と城廓を構へ楯籠り依り治部

少輔自大将と一々管領より加勢成田下総守洪江

孫次郎藤田虎壽丸大石源左衛門長尾孫太郎名代

矢野安藝入道長尾但馬守名代成田中務丞等外

武蔵の南一揆をかり催し同月十一日推現山小走向

同十九日逆責戦ひ終り城を落せしめ此地の

慶雲寺

同十六日



小田原記云此山ハ四方峻岨中ノ岸高く峙ち南ハ海北を深田なり
西ハ山嶺とてとて南とて堀切く山嶺とて平覺寺の地藏堂と
根城ヲ取

吉祥山慶運寺茅草院と号滝の橋の北詰より西の方へ一町半

浄土宗花洛知恩院ノ属と

本寺阿弥陀如来ハ立像三尺計あり

上人中々々文安四年丁卯開基と云

江州甲賀源氏と初橋場の法源寺弟二世となり又當寺と開創あり室徳

元年増上寺弟三世となり又明年間一日火車と示現し空中に衆去家

中與開山ハ願故上人と号

東國紀行

と桃源の古みとをひひつるをり下畧

宗牧

と桃源の古みとをひひつるをり下畧

臥龍山雲松院 乾徳寺と号と滝の橋際より一里十四五町西の

方小机村長津田街道の左側あり曹洞派の禪林や

遠州の石雲院ノ属せし本寺虚空蔵菩薩ハ木佛に

座像八寸計あり當寺ハ小机の城代笠原越前守信為開創

の寺院也

大和尚と号 大永六年丙戌二月 總門の額臥龍山の三大字を僧

月舟の号あり

氏麻武勇技藝と云無双の達人や古早雲寺殿の忠臣長後小机氏綱

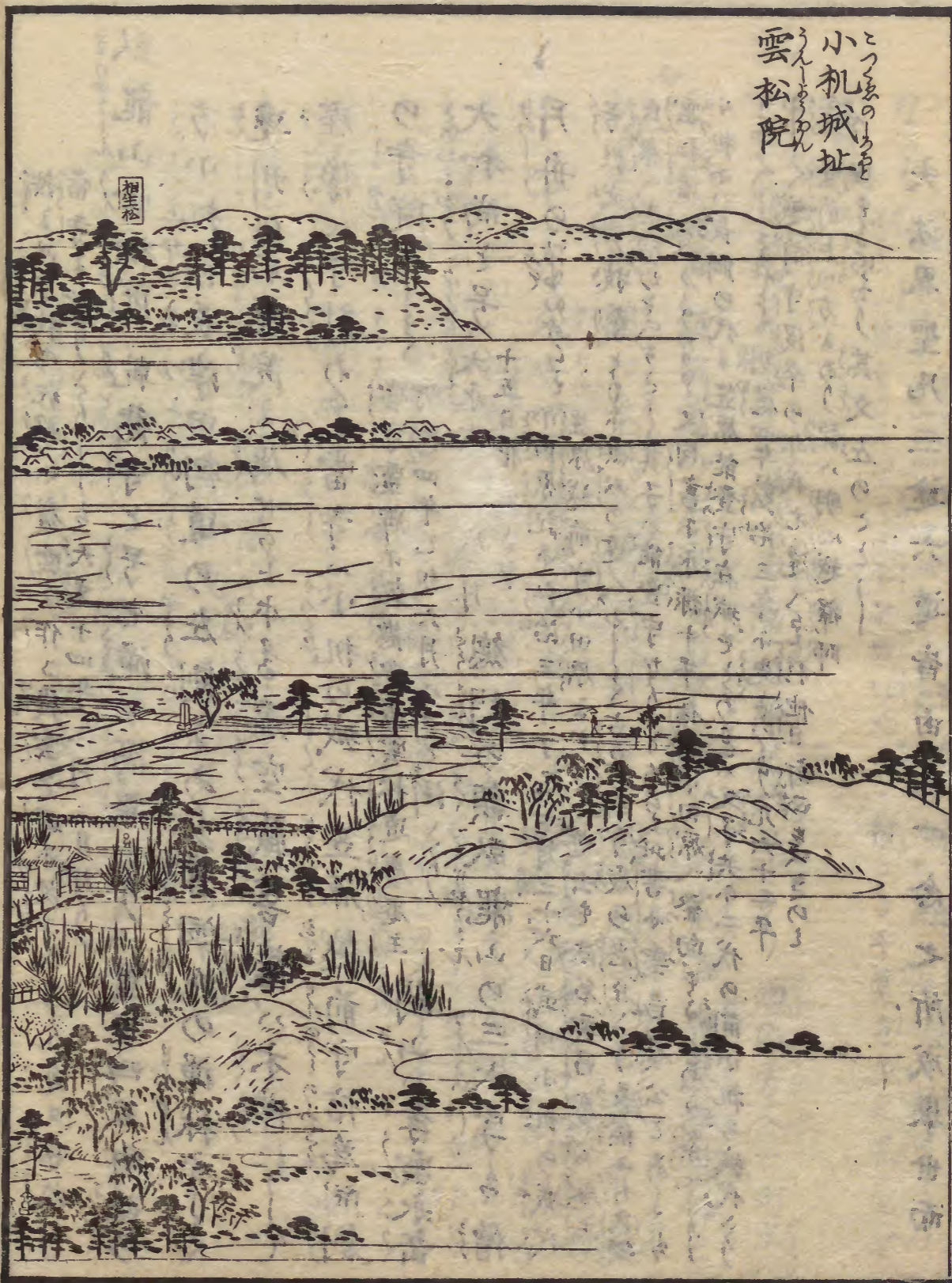
小机ハ長綱の代笠原能登守在城とあり父共ハ二代の間小机の城代

鐘堂前左の方あり其文左のこと

夫法界聖凡三途六道皆由人一念之所成舉世而

夫法界聖凡三途六道皆由人一念之所成舉世而

夫法界聖凡三途六道皆由人一念之所成舉世而



この山の上を
小机城址
うんまわん
雲松院

松龜山泉谷寺 本覚院と号し城山より五六町と隔て長津

田通道の左にあり大門三丁計り間左右に櫻の列樹あり

此地の小名と泉谷と浄土宗中々花洛智恩院に属せり本

尊一光三尊の阿弥陀如来本像中々二尺八寸計りあり

作者あつては當寺ハ鈴木但馬守とて人の開創あり

此の閑山と名蓮社見譽大道善悦大和尚と号す 弘治元年

化寂す下徳飯沼 中門の前ふ天正十八年小田原北条家より建る

私徑寺の六世なり 西の天正十八年比制札あり

淡島明神社 相模街道大熊村より左へ十三四町入る折本村ハ

ありと神主雲路氏奉祀を祭禮ハ二月三日縁日ハ毎月三日

十三日中々祭神ハ少彦名命及び神功皇后二座なり 勸

清の初ハ詳ありと云

櫻樹 神前東の方あり昔土人此山に入櫻の老樹を新よせんといふ

淡島神祠之碑 寛保壬戌夏折本の邑長藤原英至とて人邑民と共に謀る當社を新よ

多目周防守宅地 青木町の中ありとおぼしめされとて其地定あり

小田原記 信玄小田原と襲かゝる茶下も多目周防守との項

青木とつゝ居住しつゝあり

牧の城より上州の國峯岩倉若落去の時死せり



原古住



泉谷寺

三ノ百三十三



師岡
熊野権現宮



折本村
あしな
淡島明神社

二八
百二十五

青木山あきまさん西向寺さいかうじ同所どうじよ青木町あきままちの横小路よここうぢの右側みぎがはにあま虚無僧寺こむそじに

普化宗門ふけしゆもん金洗きんせん派はと称なづせ 扣番所ひきばんじよと号なづす物ものふ

本覚寺ほんかくじ切通きりどほり同所どうじよ本覚寺ほんかくじの北きたの方かたの間まを切開きりあきく道路だうぢとを

張津田ちぢんぢん通道とほぢ及およ三澤さんざわ 永正七年えいせいしちねんの秋あき上杉治部かみすぎのしぢぶ少輔すく入道にんぢう建芳けんほうう

村等むらたうへの路ぢがかり 被官ひくわん上田かみうぢ蔵人くらひぢ建芳けんほうは背せき此地このぢに打うちく出熊野いでくまの権現山けんげんさんを

城廓じやうかく小取立ことりたて西にしに續つきく山さんとハ其間そのまをハ堀切ほりきり本覚寺ほんかくじ

の地藏堂ぢざうだうを根城ねぢとせしよ 小田原記こぢはらぢよんえんあり 権現けんげん野の

山さんの糸下いとぢと

青木山あきまさん本覚禪寺ほんかくぜんじ同所どうじよの南七軒町なんしちけんぢにあま曹洞そうどうの禪刹ぜんせつはして

小机こつきの雲松院うんそうゐんに属ぞくせ本ほんなる地藏菩薩ぢざうぼさつハ一尺四五寸いちぢふごすんの立像たてざう

なり相傳あひつゐふ當寺たうじハ嘉祿二年かりよくにねんの開創かいさうや 其後そのち天文紀元てんぶんぢげん

の年曹洞大源そうどうだいげんの末流まつりゆう季雲きうん四傳しでんの法孫ほふそん陽廣やうくわう禪師ぜんじ此こゝに

住初ぢうしゆく法幢ほふたうを建たて 禪風ぜんふうを起おこせ 元祿げんりよくの初はつ殿堂でんだうハ庶しよ佛殿ぶつでんの

額がくよ本覚禪寺ほんかくぜんじと書かせ 圓明寺えんめいじの開祖かいそ道山だうさん和尚わうぢの

筆ふでなりと

圓明山えんめいさん陽光院やうかうゐん本覚寺ほんかくじの南みなみに隣となり遠州えんしゆ可睡齋かすいさい退院たいゐんの地ぢに

曹洞そうどうの禪院ぜんゐんなり 開山かいさん教けう特賜とくみ本ほん然ぜん圓明えんめい禪師ぜんじと号なづす

石牛せきぎう天梁てんりやう 後ちちの山さんを福聚峰ふくくわうほうと号なづす 門かどの額がくよ福聚望ふくくわうぼうと書かす

和尚わうぢと号なづす 永平えいへい圓明えんめい禪師ぜんじの筆ふでなりと

道灌山だうくわんさん同所どうじよ西にしの方かた北山きたさん中の字なななり 昔大田道灌むかしおほぢだうくわん入道にんぢう此地このぢに

城ぢやうを構かまへしりしありの号なづありと云いふ

飯綱いひづな権現社けんげんぢや 神奈川かんながは臺町たいぢ海道かいだうの右みぎの山上さんじやうにあま本覚寺ほんかくじあり

一町斗いちぢうと南みなみあり 別當べつたうハ真言宗しんげんしゆ同所どうじよの萬年山まんねんさん普門寺ふもんじ奉祀ほうじと

祭礼さいらいハ五月十七日ごごしちぢつなり 飯綱いひづな権現けんげん本地佛ほんぢぶつを不動明王ふどうめいおう行基ぎんぎ

大士だいしの作さくや 座像ざざう一尺七八寸いちぢふしちぱちすん坐ま踏ふみハ大山おほやま祇命ぢにんめいといひお供おんぐふ

右大将みぎだいぢやう頼朝らいぢう卿けい此こゝる像ざうを深ふかく崇敬そうけいなり 治承四年ちぢやうしや

浅間社
せんげん



富士浅間祠 同所の南芝生村海道の右の方山の中腹にあり

八月伊豆國石橋山敗軍の後安房國へ渡海の時本宮の
 靈亦よりく風浪の難を逃れ多し其後竟み天下一統あり
 ありハ文治年間此地に宮社造営ありく神領等寄
 らせありしと云々 遙の後大田道灌此地よりせん尤も信厚
 かりしと云

袖の浦 此地の光景長汀曲浦さねく袖の形も似くふ名
 とく鳥丸大納言光廣卿關東下向の頃帰路に再此地に
 よきりありく和歌を詠せし
 其時みづくを深きみ詠彈ハ此地
 江戸屋何某う家に秘先置り

よひきや神の御浪とくかへそく不極をまぬへハ 光廣
 按小黄葉集は初五文字とあまのくわく結句のとらとやとす黄
 葉集をわくく傳写のゆゑありあり

保土ヶ谷天徳寺とて真言寺の持なり此地に一の
暗窟あり上俗是を富士の人穴と号く相傳昔頼朝卿
富士の裾野小御獵ありて頃仁田四郎忠常よ余せしむ
富士の人穴の奥を究りむ忠常終み此穴中に入りて技
術ありとのみ誕譚ありとてなりとて古くより云傳
あり是を闕りあてしす

洲乾辨財天祠 芒新田横濱村よあり故小土人横濱辨財天

とて稱せし別當ハ真言宗中々同所増徳院奉祀を祭

礼王月十六日なり安置せしゆ弁財天の像ハ弘法大師の

作あり江の鳴と日本之此地ハ洲崎中々左右共ハ海に臨み

海岸の松風を波濤よ響をうりて尤佳景此地なり

海中姥島なり稱する奇巖ありとて眺望を好む

秀美なりと

